



Sさんにインタビュー

始業集会の際、校長から休み中に活躍した人の一人として紹介されたSさん。いったいどんな活躍をしたのか、宿題テストの後にちょっとインタビューしてみました。(13Rの●●さんにも補足してもらった)

H：ディベートの大会ということだけど、どんな大会だったの？

S：ディベート甲子園2012という大会で、中学校の時にも中学校部門に参加して、その時のメンバー4人が、全員日比谷に進学していたので、今年も挑戦してみました。

H：その4人というのは？

S：私と、13Rの●●さん、12R・14Rの●●さんです。

H：この4人は、同じ中学校だったんだ。で、5W1Hでいうと、いつ、どこで大会があったの？

S：6月17日と7月15日に予選がありました。会場は、吉祥寺の成蹊大学です。

H：対戦した相手校は？

S：17日が広尾学園。ここは珍しく男子二人だけでした。

H：普通は何人なの？

S：4人で1チームが普通です。

H：次の対戦相手は？

S：15日に、麻布高校と駿台甲府高校と対戦しました。全体では約25校くらいが出場していて、それが3～4校でグループになり、その中で勝者を決めるやり方でした。

H：テーマは何だったの？

S：「日本は死刑制度を廃止すべきである。

是か非か」というテーマでした。

H：是の立場か、非の立場かは、その場で決められてしまうんだよね。

S：そうです。その場で、ジャンケンで決める場合もありました。

H：自分たちとしてはどっちの立場が立論しやすかったの？

S：同じチーム内でも意見が違ったんですが、私は「非」、つまり死刑を残した方がよいという方がやりやすかったです。

H：4人の役割分担は？

S：私が立論と最初の質疑応答、●●さんが最初の質問、●●さんが第一反駁、そして、●●さんが第二反駁です。

H：準備は大変だった？

S：6月17日の時は、中間考査の時期だったので、あまり準備できませんでした。でも、その後、4人で高さ50センチ分くらいの本を分担して読みました。

H：本はどうやって選ぶの？

S：このテーマは割とポピュラーなので、ネットで調べると、大学のサークルの人などが色々な参考書を紹介してくれています。

H：出場してみた感想は？

S：難しいテーマで、調べるのが大変でした。でも、ディベートしながら相手の質問や主張の要点などをメモする「フロー」が書けるようになったし、中学校の時に比べてちょっとは進歩した感じです。

H：来年も出る？

S：わかりません～(笑)